

意欲的に英語学習に取り組む児童生徒の育成

～発問の工夫や4技能の関連による、話すことにつなげる指導の研究～

I 主題設定の理由

今年度は研究主題を「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～発問の工夫や4技能の関連による、話すことにつなげる指導の工夫～」とし、児童・生徒に基礎学力を身につけさせるために必要となる「英語学習に対する意欲」について、昨年度から継続して研究していくこととした。また、特に今年度は具体的なアプローチを明確に設定し、発問を工夫することや4技能の効果的な関連性を意識した授業づくりを意識して取り組むことで、児童・生徒が意欲的に英語を話す姿を引き出すことを目標としている。

このテーマ設定の背景には、小学校で新学習指導要領に沿った外国語活動が展開されていることや、昨年度より中学校で新学習指導要領が全面実施されている中で、英語学習にあまり意欲的に取り組まない児童や、語彙力が低く、文法知識がまだ少ない生徒たちがいるという課題がある。そのため、私たちは、小学校における外国語活動を通して育まれるコミュニケーション能力の素地の上に立つ中学校英語において語彙力や文法知識などの基礎学力を児童・生徒に身に付けさせなければならない。本部会の話し合いの中で、基礎学力を身につけさせていくためには、学習の原動力や推進力であり、学習を始めから最後までやり遂げようとする意志である「学習意欲」を高めることが最も重要であると考えた。このようなことから、今年度は、児童・生徒に対する発問の工夫をすることや4技能の関連性を意識した授業を展開することで、話すことに積極的に取り組もうとする姿勢を引き出し、学習意欲を高めるという目標にせまっていこうとした。

II 研究の具体的な進め方

1 英語の授業における発問の工夫についての文献研究

部会テーマに関する著書、『英語教師のための発問テクニック 英語授業を活性化するリーディング指導』（田中武夫・田中知聡著、大修館書店、2009年）の文献研究を行い、発問の工夫と授業への活用の方法論について議論し、今年度の研究の方向性を明確にする。

2 発問に着目した授業実践の映像を使用する研究会

上記文献の実践DVDである『英語授業での発問テクニック～リーディング指導での発問作りと活用の実例～ 3、中学校物語文の発問』（田中武夫氏監修、ジャパンタイムコーポレーション、2012年）を活用し、本理論の実際の授業における実践方法を学び、研究協議し、部員各自の研究実践に活かす。

3 各校での授業実践についての報告と研究協議

小学校7校（加納岩小，日川小，岩手小，牧丘第一小，松里小，井尻小，菱山小）と中学校7校（大和中，塩山中，松里中，笛川中，山梨南中，勝沼中，山梨北中）で，部員各自が一人一実践を行い，部会で報告・研究協議を行う。

4 研究主題を意識した研究授業（小中の統一授業研）と研究協議

研究主題を意識し，各校の実践発表の成果・課題を踏まえた研究授業を行い，その効果や課題について検討する。

8月30日 授業者 梶原ナツミ教諭（勝沼中学校）

2月 5日 授業者 飯室林教諭（岩手小学校）

Ⅲ 研究の成果と課題・来年度の研究の方向性

1 成果

今年度は，部会のテーマを具体的に設定し，目標とする児童生徒像に迫る手段を明確にすることができた。発問の工夫や4技能の効果的な関連に着目し，研究の初期に，テーマに関する理論の文献研究とDVDによる授業実践の視聴により，部員の研究に対する意識も向上した。また，部員全員がこのテーマに沿った実践を行い，研究討議することで，自らの授業づくりを見直すことにつながった。さらに，これを小中1校ずつの統一授業研につなげることができた。今年は小学校の先生方も多く，異校種の実践を知ることができ，英語学習の小学校から中学校へのつながりを感じる中で，小中連携という意味合いでも成果といえる。何より，教師がテーマを意識した授業を行うことで，児童生徒の反応が変わり，意欲的に学ぶ姿をみることができた。

2 課題・来年度へ向けて

今年度のテーマにある「発問の工夫」について，今年だけでなく継続的に研究を進めていく必要がある。目指す児童生徒の姿に発問という手段によって，どれだけ近づけることができたか検証し，評価するにはどうすべきかを考えていかなければならない。また，小学校においては発問の工夫によって，スピーキングにつなげるという流れを作り出すことや，事実発問や推論発問を取り入れることが外国語活動や小学校英語科の性質上，難しい。そのため，今後は小中連携と並行しながら，校種ごとに分かれて，それぞれの発達段階における英語学習の課題点を議論し，研究を深めていくことができる時間も必要である。

来年度も，今年度と同じテーマで研究を継続していく。小学校と中学校で，目指す児童生徒の姿は共通しているが，それぞれの発達段階に応じた副題を設定し，校種ごとの課題に応じた研究を行うことで，意欲的に英語学習に取り組む児童生徒の育成を目指していきたい。

（部長 山梨北中学校 中村大介）